

令和4年度版

観光の実態と志向

第41回 国民の観光に関する動向調査



公益社団法人 日本観光振興協会
JAPAN TRAVEL AND TOURISM ASSOCIATION

1. 調査目的

国民の観光旅行の動向を明らかにし、諸施策を推進するための基礎資料の作成を目的とする。

2. 調査項目

- (1) 過去1年間(令和3年4月～令和4年3月：以下同様)の宿泊旅行の概要
- (2) 過去1年間の宿泊観光旅行
- (3) 今後の観光旅行の志向
- (4) その他

3. 調査の設計

- (1) 対象地域 全 国 (47都道府県)
- (2) 調査の対象 インターネットモニター
*母集団は、提携ネットモニター
- (3) 対象者条件 15歳以上の男女個人
*ただし、マスコミ・広告、新聞・放送業、市場調査の業種従事者は、調査関連業種として除外している。
- (4) 設計標本数 20,000
- (5) 標本抽出方法 都道府県別、性年代別人口構成比に準拠して割付(令和2年国勢調査結果を使用)
- (6) 調査方法 インターネット調査
- (7) 調査時期 令和4年4月28日～5月6日

注1：第9回昭和55年調査までは満18歳以上の男女が調査の対象であったが、第10回昭和57年調査から満15歳以上と対象年齢を3歳下げた。第21回平成14年度調査からは対象者を全国民とした。また、第31回平成24年度調査からは、15歳以上のインターネットモニターを対象とした。

注2：第18回平成11年度調査までは対象時期が9月～8月であったが、第19回平成12年度調査からは4月～3月としている。なお、第31回平成24年度調査からインターネット調査とした。

4. 調査担当

株式会社サーベイリサーチセンター

5. 回収結果

有効回収数 20,000

6. 分類定義

地 域	北海道	北海道
	東北	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
	関東	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
	甲信越	新潟県、山梨県、長野県
	中部	富山県、石川県、福井県、岐阜県、静岡県、愛知県
	関西	三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
	中国	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
	四国	徳島県、香川県、愛媛県、高知県
	九州	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県
都 市 規 模	大都市	東京23区+政令指定都市
	中都市	人口10万人以上の都市
	小都市	人口10万人未満の都市
	町村	郡部・町村

7. 調査対象の特性

		(人数)		(%)	
		全	体	20,000	100.0
地 域	北	海	道	852	4.3
	東	北		1,384	6.9
	関	東		6,993	35.0
	甲	信	越	796	4.0
	中	部		2,536	12.7
	関	西		3,525	17.6
	中	国		1,128	5.6
	四	国		576	2.9
	九	州		2,210	11.1
都 市 規 模	大	都	市	6,548	32.7
	中	都	市	8,811	44.1
	小	都	市	3,470	17.4
	町		村	1,171	5.9

7. 調査対象の特性(つづき)

		(人数)	(%)
全 体		20,000	100.0
性別	男 性	9,916	49.6
	女 性	10,084	50.4
年 齢	15 ～ 17 歳	593	3.0
	18 ～ 19 歳	576	2.9
	20 ～ 24 歳	1,181	5.9
	25 ～ 29 歳	1,195	6.0
	30 ～ 34 歳	1,303	6.5
	35 ～ 39 歳	1,491	7.5
	40 ～ 49 歳	3,710	18.6
	50 ～ 59 歳	3,386	16.9
	60 ～ 69 歳	3,210	16.1
	70 歳 以 上	3,355	16.8
同居家族の人数	1 人 (あなたのみ)	3,690	18.5
	2 人	6,617	33.1
	3 人	4,937	24.7
	4 人	3,280	16.4
	5 人	1,036	5.2
	6 人 以 上	440	2.2
同居家族の形態	単 身 世 帯	3,690	18.5
	夫 婦 だ け の 世 帯	5,020	25.1
	夫 婦 と 親 の 世 帯	1,356	6.8
	夫 婦 と 子 ど も の 世 帯	7,245	36.2
	親 と 夫 婦 と 子 ど も の 世 帯	1,067	5.3
そ の 他	1,622	8.1	
世 帯 所 得	200 万 円 未 満	2,371	11.9
	400 万 円 未 満	4,369	21.8
	600 万 円 未 満	3,699	18.5
	800 万 円 未 満	2,412	12.1
	1000 万 円 未 満	1,490	7.5
	1500 万 円 未 満	1,115	5.6
	2000 万 円 未 満	218	1.1
	2000 万 円 以 上	128	0.6
	わからない・答えたくない	4,198	21.0

		(人数)	(%)
全 体		20,000	100.0
未 既 婚	未 婚	7,446	37.2
	既 婚	10,671	53.4
	離 別 ・ 死 別	1,883	9.4
免 許 保 有	持 っ て い る	15,351	76.8
	持 っ て い な い	4,649	23.2
職 業	農 林 漁 業	150	0.8
	自 営 の 商 工 業	929	4.6
	自 由 業	580	2.9
	管 理 職	897	4.5
	事 務 ・ 技 術 職	4,366	21.8
	労 務 ・ 技 能 職	2,785	13.9
	主 婦 ・ 主 夫	4,696	23.5
	学 生	1,520	7.6
	無 職	3,851	19.3
	そ の 他	226	1.1

< 「自営の商工業」「管理職」「事務・技術職」「労務・技能職」について >

		(人数)	(%)
全 体		11,660	100.0
勤 務 先 の 休 日 数	8 日 以 上 (完 全 週 休 2 日 制)	8,054	69.1
	5 日 ～ 7 日 (変 則 2 日 制)	2,466	21.1
	4 日 以 下 (変 則 1 日 制)	959	8.2
	そ の 他	181	1.6
週 休 曜 日	決 ま っ て い る	7,948	68.2
	決 ま っ て い な い	3,712	31.8
有 給 休 暇 取 得 日 数	5 日 以 下	2,006	17.2
	6 ～ 10 日	2,653	22.8
	11 ～ 15 日	1,324	11.4
	16 日 以 上	1,393	11.9
	有 給 休 暇 は と ら な か っ た	1,173	10.1
	有 給 休 暇 は な い	3,111	26.7

< 「就業形態」について >

		(人数)	(%)
全 体		20,000	100.0
就 業 形 態	正 規 の 職 員 ・ 従 業 員	6,520	32.6
	パ ー ト ・ ア ル バ イ ト	3,237	16.2
	労 働 者 派 遣 事 務 所 の 派 遣 社 員	343	1.7
	契 約 社 員 ・ 嘱 託	829	4.1
	そ の 他	731	3.7
	無 職 (定 年 退 職 含 む)	8,340	41.7

表 1. 過去 1 年間の実態 — 宿泊観光旅行

項 目	宿泊観光旅行の実態	
1) 参 加 率	28.6%	
2) 参加回数		
全体平均	0.70回	
参加者平均	2.46回	
3) 実 施 月	3月が 12.5%でピーク	
4) 目 的 地	県 内	22.6%
	県 外	76.9%
5) 出発した日	平 日	38.3%
	土・日・祝	35.6%
6) 行 動 (複数回答)	①自然の風景をみる	51.2%
	②温泉浴	41.6%
	③名所・旧跡をみる	29.2%
7) 主な行動	①温泉浴	25.1%
	②自然の風景をみる	16.0%
	③名所・旧跡をみる	10.3%
8) 同 行 者	①家族	55.8%
	②友人・知人	20.9%
	③自分ひとり	17.1%
9) 同行人数	①2～3人	60.5%
	②1人	17.7%
	②4～5人	15.7%
10) 利用交通機関 (複数回答)	①自家用車	52.3%
	②JR鉄道	33.4%
	③私鉄	14.6%
	④飛行機	10.9%
	⑤路線バス	10.6%
11) 宿泊施設	①ホテル	63.8%
	②旅館	22.8%
12) 宿 泊 数	平均 1.55泊	
13) 旅行費用		
総 費 用	49,560円	
宿 泊 費	23,480円 注) 旅行会社の募集団体	
交 通 費	12,070円 及び「職場、学校」	
土 産 の 費 用	6,210円 「地域宗教」の団体	
観 光 行 動 費	11,470円 を除く	

表 2. 過去 1 年間の宿泊旅行の実態

旅行の種類	参加率	参加回数 (全体平均)	参加回数 (参加者平均)
全体	37.5%	1.28回	3.41回
観光旅行	28.6%	0.70回	2.46回
出張などの商用	4.7%	0.20回	4.23回
帰省などの私用	10.2%	0.29回	2.82回
兼観光旅行	4.4%	0.09回	2.11回

表 3. 今後 1 年間の宿泊観光旅行の希望

1) 参加希望率	58.7%
2) 参加希望回数	2.33回
3) 希望季節	秋 32.9%、夏 27.8%
4) 希望宿泊数	2.05泊
5) 希望費用	総費用 45,020円 1泊あたり宿泊費 11,330円
6) 希望する旅行の種類	①温泉を楽しむ 44.3% ②食を楽しむ 26.1% ③寺社仏閣を楽しむ 22.7% ④季節の花々を楽しむ 21.8% ⑤リゾートライフを楽しむ 19.4%

令和4年度調査結果のポイント

本調査は、全国の20,000人を対象に、令和3年度（令和3年4月～令和4年3月までの1年間）の国内旅行の実態と、今後の希望について調査を行ったものである。この調査は、昭和39年から継続して実施しており、国民の観光動向を55年以上のロングスパンで比較検証できる調査である。ただし、平成24年度調査（23年度の宿泊観光旅行実態を調査）より、訪問留置調査から現在のインターネット調査へと調査手法を変更したため、平成22年度以前と平成23年度以降のデータとでは単純に比較はできない。

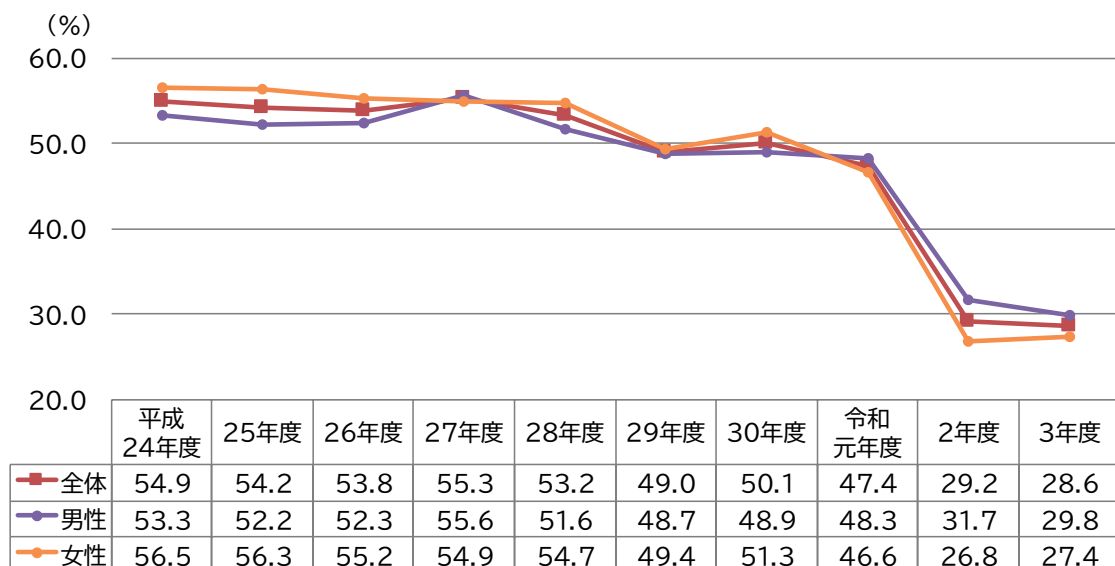
令和3年度の宿泊観光旅行は、昨年度の旅行実態から参加率が微減している一方で、参加希望については数年ぶりに増加に転じている。実態としては昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響が大きいのが、希望については回復の兆しがみられる結果となっている。

Data 1 宿泊観光旅行の参加率

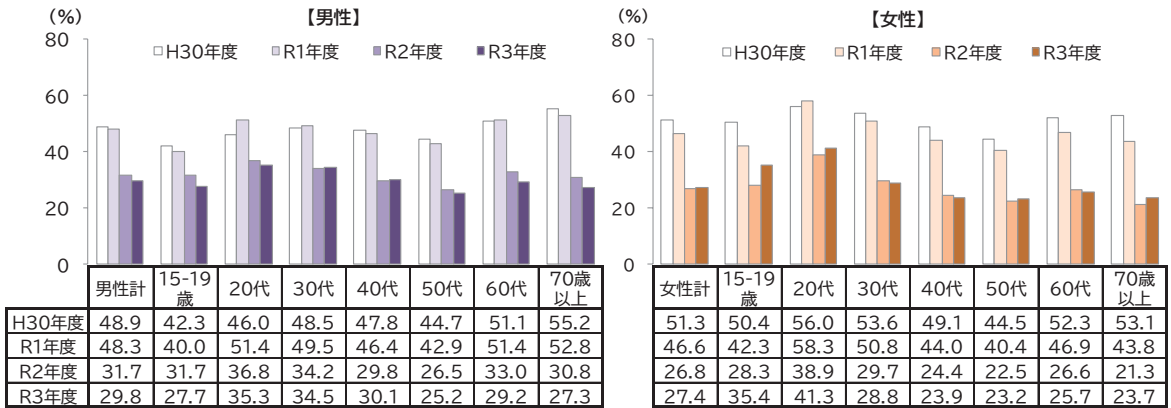
令和3年度における宿泊観光旅行への参加率は28.6%となり、昨年度に比べ0.6ポイントの減少となっている。宿泊観光旅行の参加率は、昨年度に大きく低下していたが、今年度も減少傾向がうかがえる。性別にみると、男性の参加率は昨年度に比べ1.9ポイント減の29.8%、女性の参加率は昨年度に比べ0.6ポイント増の27.4%であった。

性・年代別にみると、男性では30代・40代を除くすべての年代で前年度よりも減少しているものの、女性は、30代・40代・60代を除き増加している。特に、女性15-19歳で参加率の増加幅が大きく、7.1ポイント増加している。

図表2-1: 宿泊観光旅行参加率の推移(全体/性別)



図表2-2: 宿泊観光旅行参加率の推移(性・年代別)

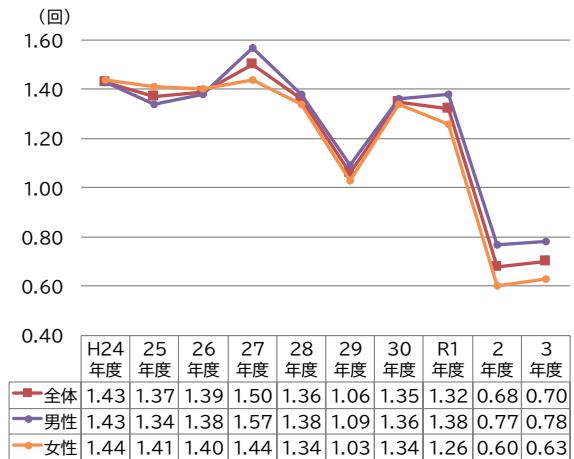


Data 2 宿泊観光旅行の回数

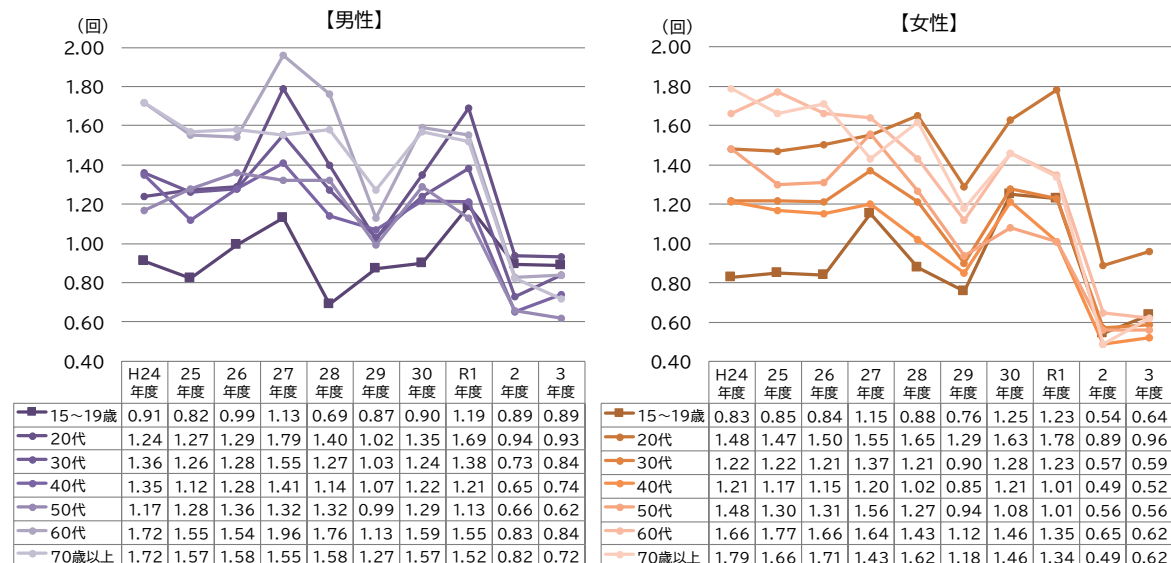
宿泊観光旅行への参加回数は全体で 0.70 回と昨年度に比べやや増加している。性別にみると男女ともに微増している。

性・年代別では男女とも昨年度から参加回数が増加または同水準の年代がほとんどであるが、男性 50 代・70 歳以上、女性 60 代では昨年度よりも減少し、平成 24 年から比べると、過去最も低い水準となっている。

図表2-3: 宿泊観光旅行への参加回数(全体平均)の推移(全体/性別)



図表2-4: 宿泊観光旅行への参加回数(全体平均)の推移(性・年代別)

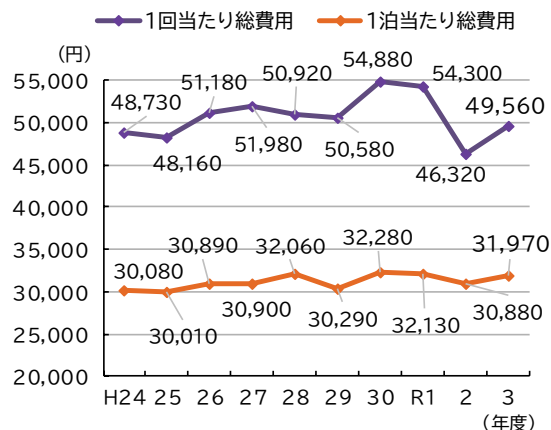


Data 3 旅行費用

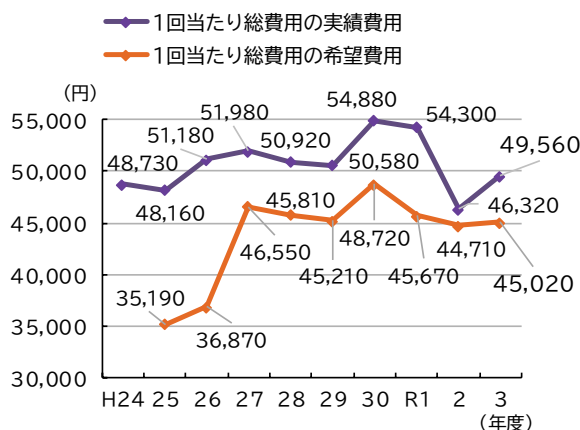
宿泊観光旅行における1回当たりの総費用は49,560円で、昨年度から3,240円の増加となっている。1泊当たりの総費用は31,970円で、昨年度より1,090円の増加である。

一方、希望費用では、1回当たりの総費用が45,020円と、昨年度から310円と僅かに増加し、実績と希望の差が拡大した。1泊当たりの総費用は21,960円と、昨年度から870円増加した。

図表2-5: 宿泊観光旅行の総費用の推移 (1回当たり/1泊当たり)



図表2-6: 宿泊観光旅行の総費用の推移(1回当たり/1泊当たりの実績と希望)

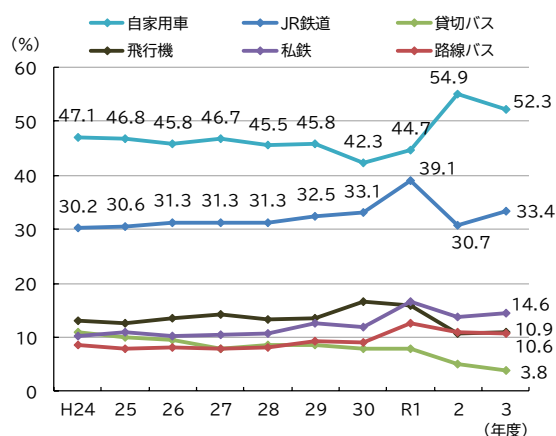


※平成25年度調査(平成24年度)の希望費用は、聴取方法を変更しているためデータの比較が難しく、掲載をしていない。

Data 4 交通手段

宿泊観光旅行における利用交通手段は、「自家用車」が52.3%で最も多く、次いで「JR鉄道」が33.4%、「私鉄」が14.6%と続く。昨年度と比較すると、「自家用車」が2.6ポイント低下、一方「JR鉄道」は2.7ポイント増となっている。「自家用車」は利用率が若干減少したものの、依然50%を超える割合を示し、コロナ禍の影響による交通手段の変化がみられる。

図表2-7: 宿泊観光旅行の利用交通手段の推移

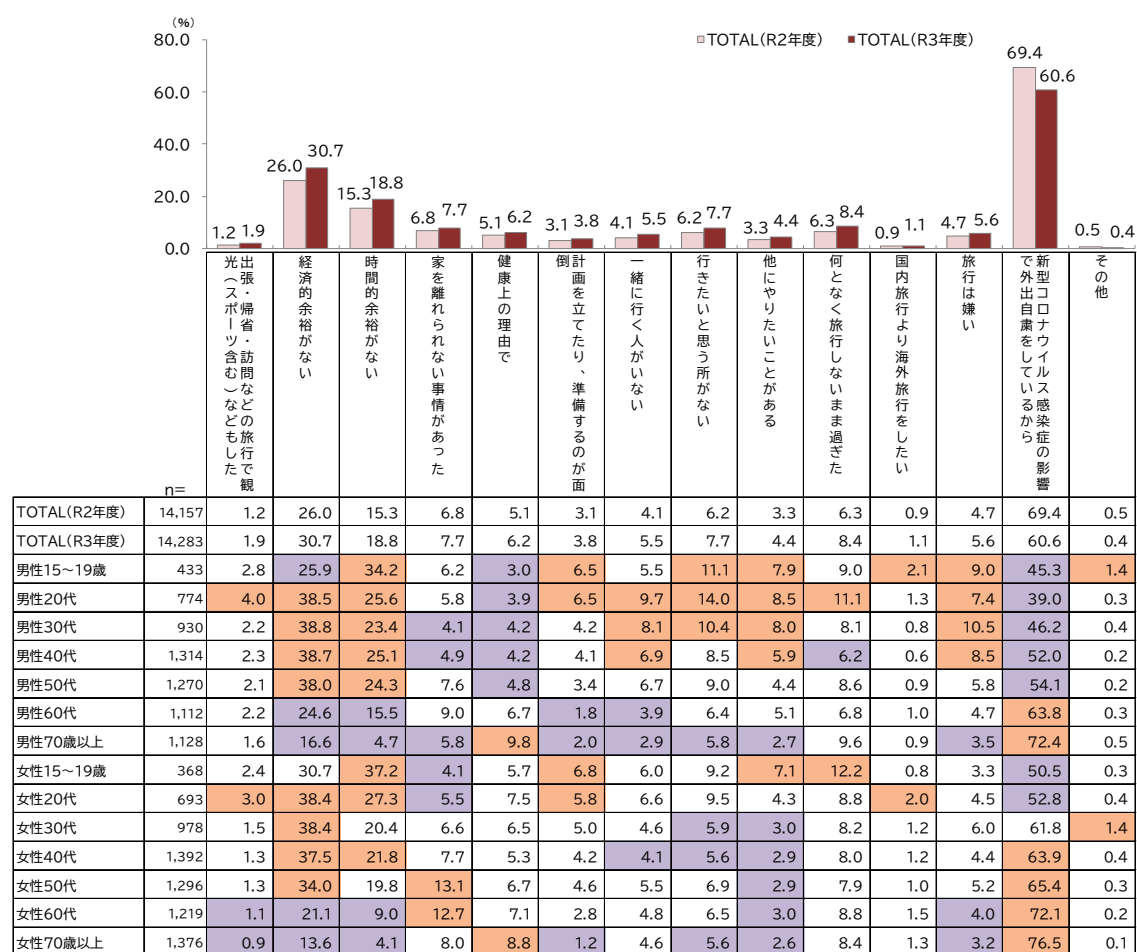


Data 5 宿泊観光旅行をしなかった理由

性・年代別に宿泊観光旅行をしなかった理由をみると、「新型コロナウイルス感染症の影響で外出自粛をしているから」の割合が全ての性・年代において最も高く、年代が高くなるにつれ、その割合も高くなっている。その他の理由をみると、男女ともに20代～50代は「経済的余裕がない」をあげる割合が高く、各層で3割台となっている。また、男女とも50代以下の層では「時間的余裕がない」の割合も高い。一方、高齢層では、男女とも70歳以上で「健康上の理由で」、女性50・60代では「家を離れられない事情があった」の割合が他の層に比べ高い。

昨年度調査と比較すると、「新型コロナウイルス感染症の影響で外出自粛をしているから」が減少しており、新型コロナウイルス感染症の外出に与える影響は若干低下しているものと考えられる。

図表2-8: 宿泊観光旅行をしなかった理由の比較



※ TOTALよりも95%以上の水準で有意に高い

※ TOTALよりも95%以上の水準で有意に低い

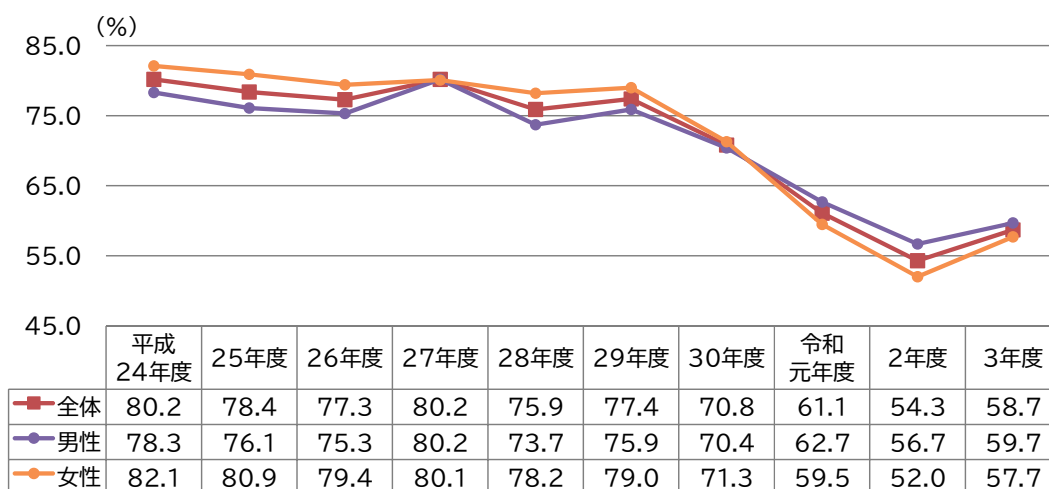
※ ベース: 宿泊観光旅行をしていない人

Data 6 宿泊観光旅行への参加希望率

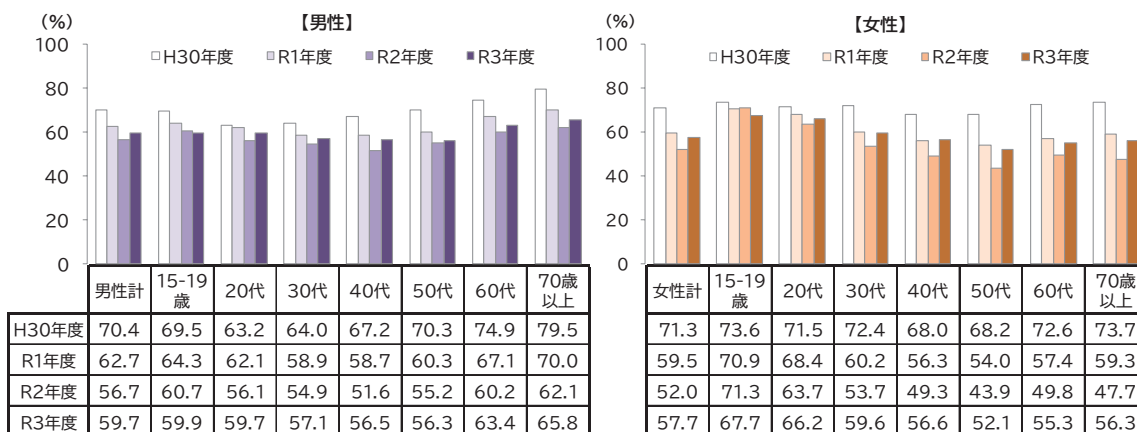
宿泊観光旅行への参加希望率は、昨年度に比べて4.4ポイント増加し、58.7%となっている。

性・年代別にみると、15-19歳を除いたすべての層で昨年度より増加しており、特に女性30代以上の各層では5ポイント以上の増加となっている。宿泊観光旅行への参加希望という点においては、回復の兆しがみられる。

図表2-9: 宿泊観光旅行参加希望率の推移(全体/性別)



図表2-10: 宿泊観光旅行参加希望率の推移(性・年代別)





公益社団法人 **日本観光振興協会**
JAPAN TRAVEL AND TOURISM ASSOCIATION